



# 福井県

# 中学校長会の窓

発行 福井県中学校長会  
 編集 福井県中学校長会広報部  
 印刷 宮田 写植 印刷  
 福井市春日1丁目7-4  
 TEL (0776)35-3865

第 136 号  
 平成30年 7月15日発行

## 第67回 福井県中学校長会研究大会二州大会

平成30年5月11日(金)  
 ニューサンピア敦賀

### 会長挨拶



福井県中学校長会

会長 藤田 清憲  
 (足羽第一中学校)

校長先生方、こんにちは。  
 立夏も過ぎ、周りの景色は木々が芽吹いて、若葉がつややかな緑色に変わり、初夏の香りが感じられる季節になりました。

本日、平成三十年年度 第六十七回 福井県中学校長会研究大会二州大会を開催するにあたり、敦賀市長 湖上隆信様、美浜町長 山口治太郎様、若狭町長 森下裕様、福井県教育庁 学校教育幹 佐々木栄秀様をはじめ多数のご来賓の皆様にご臨席を賜りましたこと厚くお礼申し上げます。

敦賀市は歴史と人道の港町です。古刹西福寺が所蔵していた古文書「すけつな置文」が関係者の尽力で四十年ぶりに奇跡的に帰還したこと。シベリア動乱で家族を失ったポラーノ下孤児が上陸したことや、杉原千畝がユダヤ難民を「命のビザ」で救ったことは有名です。その港は今はいかに整備され、たくさんのフェリーが行き来し、四月には外国大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」も寄港し、敦賀の町中も賑わいを見せていたとお聞きしました。さて、これからの社会は予測することが難しく、厳しい挑戦の時代を迎えることが予想されます。生産年

齢人口の減少、グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な発展などにより、社会構造や雇用関係は大きく変わっており、近い未来では子どもたちが就くであろう職業の三分の二程度は今の職業であったり、雇用者総数の五十%弱が自動化されるリスクが高いとの研究も出されています。

新学習指導要領では、予測できない未来に対応するため、主体的に向き合い関わり合い、自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出すことが重要であり、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立てる解決を目指す、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められています。

私たち校長は長年培ってきた実践と経験を根底に置き、新学習指導要領のねらいを見極めながら、教育活動や高校入試制度改革、働き方改革による業務改善、学校事故未然防止のための生徒理解・生徒指導の在り方等の諸問題に対し、リーダーシップを発揮していかなければなりません。

また、県中学校長会としては、会員の総力を結集し、県教育振興基本計画の基本理念である、「ふるさと福井への誇りと愛着を持ち、自ら学び考え行動する」生徒の育成のため、

校長力・人間力の向上を目指していかねばいけません。

本研究大会は、全日本中学校長会の「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」を研究主題として、これまでの研究成果を踏まえ、県下中学校長の英知と創造を結集して主題に迫る具体的な方策を究明し、中学校教育の一層の充実発展に資するとともに、広く県民の信託に応えたいとの目的から開催をしています。

先ほど見せていただいた各分科会の発表の根底にあるものは、社会に開かれた教育課程の重要性と学校教育は、集団での生活や活動を基本とするものであり、生徒相互の人間関係の在り方は、生徒の健全な成長と深く関わってくるのだと思えます。そして、好ましい人間関係を基礎に自分と他者や地域社会との関係を自他共に肯定的に受け入れられることは、充実した学校生活を送る上で重要な基盤であり、そのためには校長のマネジメント力とリーダーシップ等の力量向上がさらに求められるとの発表でありました。研究そして発表された校長先生方、貴重な実践を提供いただきありがとうございます。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、ご指導とご支援を賜りました敦賀市、美浜町、若狭町をはじめ福井県教育委員会ならびに敦賀市教育委員会、美浜町教育委員会、若狭町教育委員会に対しまして、深く感謝申し上げますとともに、開催準備や運営にご尽力いただきました二州地区の校長先生方に心からお礼申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。

本日の研究大会、よろしくお願います。

## 役員名目

平成三十年度  
 福井県中学校長会

会長	(岩瀬) 藤田 清憲
副会長	(万葉) 三田村 雅人
副会長	(東浦) 角田 猛
会計監査	(三国) 清兼 正義
会計監査	(朝日) 近藤 博徳
理事(福井吉田)	(蜀山) 藤田 清憲
理事	(川西) 野口 正人
理事	(足羽) 森上 愛一郎
理事	(松岡) 鈴木 広幸
理事(坂井)	(芦原) 松野 信一
理事	(丸岡南) 松嶋 美治
理事(奥越)	(上庄) 勝矢 和宏
理事	(磐山部) 伊藤 浩行
理事(鯖丹)	(鯖江) 窪田 政一
理事	(宮崎) 藤本 正人
理事(南越)	(万葉) 三田村 雅人
理事	(池田) 清水 誠
理事	(南条) 中村 晴義
理事(二州)	(東浦) 角田 猛
理事	(三方) 内田 雅文
理事(若狭)	(小瀬) 西川 芳夫
理事	(内浦) 大野 伸也
理事(中教研)	(至民) 吉村 淑子
理事(中体連)	(成和) 小倉 浩一郎
理事(教育研究)	(安居) 徳永 芳久
理事(人事財政対策)	(明倫) 川上 晋
理事(進路対策)	(明道) 北川 裕之
理事(広報)	(中央) 丸山 繁喜
理事(学力診断)	(天安寺) 柿原 大祐
庶務幹事(庶務)	(社) 岩本 明裕
庶務幹事(会計)	(大東) 湯口 和弘
事務局員	塚田 雅洋
事務局員	山下 正明

# 知事講話

福井県知事

西川 一誠氏



第六十七回福井県中学校長会研究大会二州大会が開催されるにあたり、お祝い申し上げます。

さて、本日は、五月の連休も終わり、いよいよ本格的に学校運営が始まるという大事な時期に、県内の全中学校の校長先生が一堂に会し、研究主題に沿って研究を深めたと聞いています。子どもたちの学力向上と健全育成のため、日々御尽力されていることに心から感謝を申し上げます。

数日前に、小学校の校長先生とお話する機会がありましたので、本日は、小学校の校長先生と中学校の校長先生と何が違うのかなと思いつながら、今日は参ったところですよ。校長先生をやっておられて、やりがいがあると思われる人は手を挙げてください。(挙手) ほぼ全員ですね。それでは、今校長をしてもらって、楽しいと思われる人は手を挙げてください。(挙手) 次に、苦しいと思われ人は手を挙げてください。(挙手) ほぼ全員ですね。これは中学校になりますと、苦しさというか、厳しさを感じる、そういうのはやはり小中学校の校長先生の

違いだと思えます。子どものいろいろな問題が中学校で吹き出してくることもあり、苦しいとか、厳しいとかいう、そういうフアクトが出てくるのかなと思えます。では、できれば小学校の校長先生の方がよかったと思う人は、手を挙げてください。(挙手) はい、やっぱり何人かいらっしゃいますね。小学校にはそういう方は一切いません。みんな楽しいと言っています。そこが違います。

皆さまのおかげで福井県の教育は、ここ数年ずっといろいろな課題はありましたが、頑張ってくれまして、全国から約二、七〇〇人の皆さんが研修に来ます。また、六県から、一年間先生を派遣して福井県で勉強させるということもあります。また、皆さまの先輩の校長先生OBが和歌山県に三年間行きてまして、仁坂知事のアドバイザーと和歌山県の教育を改革していただきました。いろいろと実績が上がっていると思います。皆さん方の日々のご努力の結果だと思えますので、心から厚くお礼を申し上げます。(挙手) ありがとうございます。

今回は文科省の国際教育課に對しまして、先生一名を専門職として派遣してほしいということで、英語の教育について福井県の実績をもとに全国の英語教育、これを具休化地域に合ったような教育にしてい、そのアドバイザーということに派遣をさせていただきます。

皆さん、実際やっておられて小学校と中学校と違うところは他にどんなところがありますか。

(校長①) 小学校は、子どもたちの方から、どんどん、寄ってきてくれることが多かったと思います。中学校では、こちらから声を掛けない限りなかなか寄ってこない、児童と生徒の距離感が一番違うような気がします。(挙手)

距離感ですね、子どもたちの違いかも知れませんね。

では、小学校の先生と中学校の先生はどちらが多忙でしょうか。(校長①) やはり中学校の方が朝も早い

ですし、帰る時間も遅いです。(中) 学校の方が多忙であることは、間違いないですね。やはり中学校において様々な問題が集積してきますね。中学校でいろいろな問題を解決すれば、これが小学校にもまたいい影響を与えるだろうし、高校にもまたいいことがあるかもしれないと思います。

次に、「西川、中学校の校長になったらどんなことをするのか。」と聞かれたら、さて何をしたいのか、なかと考えてみました。先生の授業をじっと見に行くことは、嫌がられるだろうと思います。また、一つ一つ指示するというのもどうなのかなと思います。皆さんはそういうことは困らないのですか。(校長②) 「はい。困ってはいません。毎日学校の中を見て、空気を常に感じるようにしています。」

空気を感知するのは、どのような空気が、どんなことをすると感じられるのですか。

(校長②) 子どもたちの先生方に対する反応の様子とか、授業の活気などを感知するようにしています。もちろん校舎の設備関係の不具合なんかも目を向けています。(挙手)

皆さんはこの四月から、先生の授業を見学されましたか、手を挙げてください。はい、ほぼ全員ですね。では、ご覧になるときには何を注意してご覧になっておられるのでしょうか。

(校長④) 私は、教員と生徒の関係を中心に見ています。特に、信頼された受け答えができていないか、発問したときに子どもたちの言葉の返し方とか、反応の様子を見ながら、いい関係が保たれているかなどです。(挙手)

もし、そういうのがつくれていない先生がいらっしゃるとしたら、どんなことをすると、そういうことがうまく解決できるというようなご指示をされますか。

(校長④) できるだけ子どもといる時間を増やしてほしいと指導します。(挙手)

子どもといる時間ですか。

(校長④) 例えば休み時間なんかでも、すぐ職員室へ戻ってこられる方もいますし、そのまま教室に残った子どもたちと会話をしている先生もいます。(挙手)

それは子どもたちとの接触時間をもう少し一人ずつ長くする、人間的な信頼関係、そこを皆さんは見えておられるということですか。

教授法というのか、字がうまくなるとか、言葉がはっきりしないとか、そういうことはどうでしょうか。

(校長④) 指示を明確にしない子どもたちも聞き取れないので、そういったことでも信頼関係の構築には関係があります。(挙手)

それはどういう時にその先生に指導するのでしょうか。

(校長④) タイミングを見ながら、部屋に来てもらうこともありますが、こちらから行って指導することもあります。(挙手)

今日の校長先生は、子どもとの関係とか、そういうことを考えながらやっておられるということかと思えます。

小学校の校長先生にお話した中で、まず最前線の仕事をしてほしいというテーマが一つあります。それは、今、校長先生は、現場の先生の様子を見る最前線でお仕事しておられるでしょうし、いろいろな意味で最前線にいるということだと思えます。

皆さんの学校では、A L T という方はおられますか。(挙手) ほぼ全員ですね。

学校では、生徒にA L T を紹介することはあるのですか。それは誰が紹介しますか。

(校長⑤) うち小さい小中学校ですの、全体でやりました。そして、そのままクラスに入ってます。そこでも紹介するという形が多いです。(挙手)

(校長⑥) 本校のA L T は三人です。新形式で紹介しました。(挙手)

そうですね。例えば、A L T を校長先生が英語で紹介してみてもどうでしょうか。紙を見てもいいし、見

なくてもいいと思います。それをぜひ来年、いや、今年の夏に挑戦されたらどうですか。すると、子どもにインパクトがあると思えます。紹介文を校長先生が考えてもいいし、英語の先生に原稿を作ってもらってもいいと思います。ぜひ一回挑戦をされたらどうでしょうか。

先生がいて、子どもがいて、全くやったことない英語で紹介することは、校長先生にとつてすごいチャレンジだと思えます。校長になられたら、試してみたい。校長になられたら、自分はどういう気分になるか、ご自身の潜在的な能力がどれくらいあるのか、チャレンジした後にどうなるのか、と思いい、申し上げました。

校長先生のご努力の姿とかを若い先生や子どもたちに見ていただくと同時に、ご自身もいろいろと学ぶことは、校長先生でしかないわけですよ。それで失敗しても、校長先生は頑張っているのだからということになると思えます。失敗は決してしないと思えます。ぜひやりやうと思いたいと思えます。

皆さんは、この春の高校入試の問題を全問解いた方は手を挙げてください。(挙手) 全問解いた校長先生は三人しかいらっしゃいません。それはまずいです。校長先生はいろいろご指導されていらっしゃるのだから、それぞれの先生が中学校で何をやっていけるかを知ることにならなければなりません。別に入試がすべてというわけではありませんが、ぜひこれは解かれるべきだと思えます。

明日でも結構ですから、数日のうちに全問解いていただいて、それぞれの学科で県の高等学校がどんなことを思っているかというか、それを投げかけているかというか、そういうことを実感していただくのは決して悪くないし、これも校長しかできないかなと、そういうふうな思うのです。

では、学力テストの問題を全問解いた方は手を挙げてください。(挙手) 四分の一。これもあまりいい傾



向ではないですね。学力テストを校長が解いていないというのは、何か世の中をあまり気にしていない兆候かも知れないと私は思いますので、ぜひこれはやっていただく価値があります。

つまり最前線では何かやっていただくもつとも至近な例として申し上げましたので、他にいろいろなことがあると思います。何でも思いついて、自分の身の回りで手に取れるもので、やれることはぜひやっていただいで、先生とのいろいろなコミュニケーションに役立ててほしいと思います。教員とのよいコミュニケーションを取ることにもつながると思います。

学校は組織的に仕事をする事も少なからずありますが、やっぱり授業という、それぞれの先生の世界です。ですから、お一人お一人の世界です。ですから、一人一人の皆さんとどうやってネットワークを組むかというの極めて難しい世界だと私は思うのです。一対一の勝負になりませんよ。かなり日陰の仕事だと思えますし、根気のいるお仕事だと思えます。でも、ぜひともいろいろな指示等をおやりいただくことが大事かなと感じております。

次に、英語の教育で一番気を付けないといけないことはどんなことでしょうか、先生とのいろいろなコミュニケーションを取るときにも関係すると思います。

(校長⑦)「使える英語です。」  
使える英語、いわゆる話せる英語です。さらに話せる英語はどうしたらよいのでしょうか専門の立場で言ってください。

(校長⑦)「そういう場面を授業の中で、あるいは学校の中で設けることと、生徒が外で使いたいという、そのような気持ちにさせるという、そういう授業だと思います。」

また、ラジオの英語番組をお聴きいただいている校長先生は手を挙げてください。(挙手) 十数パーセントですね。最近のラジオ番組、NHKラジオはいいと思いますので、一

日に十五分で結構ですから、ぜひ聴いてください。すごく使える英語型に変更しています。

先生方は何を聴いていますか。テレビやスマートフォンをよくご覧になっておられる方は手を挙げてください。(挙手) 一人です。すごく面白い。中学校の生徒に教える授業が、それぞれの科目であり、すごくいろいろな上手な教え方をしていますので、ひとつ参考に、先生方をご指導になるときに、やられたらどうでしょうか。

世の中は日進月歩です。これは今日、教育委員会で言われている、世の中の動きに敏感であってほしいという三番目の項目になります。今ラジオやインターネットの話をしましたが、これは何を意味するかと言います、学校という存在が、段々と役割がこのままでは小さくなってしまっているのかということの意味するとは私には思いません。

このまま、われわれの状態、自分たちだけでこんなことをやっている、そういう感じがいたします。そうすると、どういうことになるかといえます、校長先生を始め、皆さん方が一生懸命学校運営をし、子どもたちに向き合ひ、多忙化を極めて、日々心を尽くしても、保護者はそれだけ感謝をしてくれるか、という問題につながります。

世の中の教育というのは非常に日進月歩で、塾ももちろんあります。こういうインターネットとか、あるいはラジオやテレビ、そういうものがすごく発達していますので、よほどわれわれが注意をして学校という教育の現場で何を日々世の中の動きに敏感になりながらやるかというのは、極めて重要だと思います。

その意味で、ライバルの動きをよく研究してください。ご自身の学校だけでも興味を示さないと、あるいは県とか、外国のこととか、いわゆるこの日本で誰でも無料で見られるような、そういう教育番組、そん

なものに関心を向けたいという教育ができないだろうと思います。

今英語の話をしましたが、歴史を教えておられる先生にお尋ねします。最近社会科で一番大事なことはどうですか。

(校長⑧)「いろいろな事実とか、資料が変わっていきまますので、動いていきますので、そこに敏感になる生徒あるいは資料を読み取る力とか、いろいろな大勢の人たちとやりとりができる。意欲的な生徒を作りたいなと思っています。」

先生は、歴史というのは進歩すると思っておられるのか、あるいはぐるぐる回るものがあるだけだとか、繰り返しているだけだとか、どんな感じでこれまで教えてこられましたか。

(校長⑧)「これから生きていく上で参考になる事実の積み重ねだと思っておりますので、繰り返しながら発展していきものだと思えます。」

繰り返しながら発展、そういうのは、若い先生と勉強する場をお作りいただく面白いかも思いません。歴史とか、社会のいろいろな若い先生たちとコミュニケーションの場として何かお使いになるのもいいかなと思えます。

中学の数学はどうなっていますか。どのように数学を教えていますか。

(校長⑨)「やはり計算の基礎がないと厳しいとは思いますが、それをどう日常生活の事象で使っているか。だから、数学がどういうふうな利用されているかというのをだんだん勉強しないといけないのではないかなと思っています。」

今、中学生で一番つまずく数学の分野というのはどこでしょうか。

はなかなか教え方が子どもがらにうまいなと思いました。あのころの数学なんて割合単純でしょうから、今みたいに難しくはないかもしれません。ぜひ一回、インターネットなどをご覧いただいて、なかなか面白く教えているので、教え方の改良をやっていただくといいいかなと思えます。

あと、国語教育の悩みなどをお聞かせください。

(校長⑩)「言葉を通して認識内容を、認識させる方法を系統的に教える、認識させる方法が系統的に教える、古典もあるのですか。」

(校長⑩)「はい。習います。」

そうですか。漢文や漢字を習っているのは何の意味があるのだろうか、これをやる子どもたちにとって何がよいのか、何が楽しいのか、そういう基本的なことを一回振り返って先生方と議論していますか。それは大事なことだと思います。

(校長⑩)「古典に限らず、人間って素晴らしいなと、生きていることは素晴らしいなということを、言葉を通じて感じてもらえるのが大事なんじゃないかなと思えます。」

そうですね。もう少し具体的にいろいろおやりになると国語も面白くなる。

皆さんの中にお坊さんはいらっしゃいますか。(挙手なし) 昔はそういう方が多く、すごく学識があり、子どもながらに立派な先生という感じがしました。普通の短歌や俳句、古事記などがさらさらと出てきました。できまして、そういう先生をたくさん養成してくれると国語は面白くなるでしょうね。小・中学校くらいになるとそういう古典や和歌、俳句などを子どもたちに擦り込んでいくとどうでしょうか。

小学生が県庁に来ますので、最近「百人一首言える？」という、皆さん一つづつある言います。紙に一〇〇人書いてあるのを皆さんに渡して帰ってもらっています。国語は、古典等ができるだけ先生にわかって

もらえるといいと思います。各科目について心構え的なものやペースをしっかりと押さえていただくことありがたいと思えます。

最近、道徳教育と聞かれています。道徳教育よりもふるさと教育といいますが、ふるさととか、地域とかそれぞれの町とか、そういうものをベースに歴史、地理、あるいは郷土を愛するとか、そういう教育をお進め願うことが大事かなと思えます。

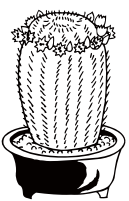
大河ドラマや中学校で橋本左内とかいろいろ出ていますよね。でも、子どものころは、話を先生から聞くと古くさい感じを私は受けたのです。今の子どもはそういう気持ちはないですか。もし、話をしても興味を示さないのであれば、そこを解消することが課題だと思います。

そこで一つだけ申し上げたいのですが、昔の人と、橋本左内を例にしますが、皆さん方とどちらが古いのか、新しいのか。

子どもは昔の人を古いと思ってしまうと思います。橋本左内は昔の人だし、僕らより年取っているし、春嶽公はいいおじさんだし、昔に生まれて死んでしまったから、古いと思ってしまうと思います。みなさんは、どう思いますか。

よくよく考えると昔の方が、われわれよりも、またはわれわれの後の世代の子どもたちよりも若々しいというような発想をしっかりとついていた方がいいです。ぜひ、古い人はわれわれよりは元気があるパワがある、活動的で活性化した人たちだという気持ちで接していただいで、郷土教育を進めていただきたい。よろしくお願ひいたします。

以上でお話を終わります。ありがとうございます。



■第一分科会

社会に開かれた  
教育課程の編成・実施

いかに地域貢献を進め、  
地域の活性化に寄与していくか？

発表者 足羽中 森上愛一郎

◎発表要旨

前任校園見中学校は、過疎化にともなう少子高齢化が加速度的に進み、地域の活性化が最大かつ喫緊の課題である。このような環境で、地域とともにある学校としての存在意義を考えたときに、「いかに地域貢献を進め、地域の活性化に寄与していくか」が学校の最大の使命である。

本実践は、その実現のための、人的・物的資源の有効活用や社会教育と連携した教育課程の編成の具体化と効果を示したものである。

①スクールプランの策定

平成二十九年度の重点目標を「ふるさとを愛し、未来の夢を語れる生徒」および「地域に貢献できる生徒」の育成に定め、これに対応した



数値目標を設定

②地域を進める体験推進事業

- 地域貢献を目指した取り組み
  - ・学校のシンボルとなり地域イベントでも活躍する「ゆるキャラ」を生徒・教員で制作
  - ・地区のイベントで、司会・進行準備・後始末等当日の役割だけでなく、実行委員会への参加等、企画段階から参画
  - ・シルバークラフと呼ばれる憩いの場に訪問し、高齢者と関わる中で自己有用感を得る
  - ・和楽器の演奏会を地区の文化祭等だけでなくハピテラスでも実施し、成就感を得る
  - ・修学旅行先で地区の特産品の販売を成功させるため事前の準備を重ねる中でふるさとに対する誇りや愛着心を醸成
  - ・津波対応の避難について、地域の保育園児や小学生を招いて防災サバイバル教室を開催
  - ・地域の婦人会の方々による郷土料理講習会を開催し、地域イベントで活用
  - ・伝統行事「石のり採り」を実施し、収穫物を小学校や介護施設に提供
  - ・朝のあいさつ運動は県道を車で通る地域の方に対しても実施し、地域から好評

○地域との情報共有

- ・学校だよりや学年通信、ホームページ等に加え、マスコミへの積極的な働きかけにより多数報道され、地域の活性化に寄与
- ③成果と課題
  - ・地域と連携した活動に参画することで、ふるさとに対する愛着や誇りを感じることに繋がった。
  - ・また、達成感や自己有用感、地域の活性化につながっていることを実感することで、将来の夢や目標を持つている生徒の割合が大幅に増加し、キャリア教育の面からも効果的であった。
  - ・一方、タイムマネジメントの面からは、少々無理な面もあったことは事実であり、いかに教育課程

の中にさめか、学校の希望と地域の要望の折り合いをつけるかが課題である。

◎研究協議

○地域との連携

地域との連携は、生徒の成長の上で大変効果的であることは、本実践から十分理解できる。特に企画段階から参画することは、生徒の主体性を育むことに直結しており、素晴らしい。

小規模校ならではの特長を生かした取り組みだが、中・大規模校では運営面で難しい面がある。例えば部活動単位で行事を担当するようにすれば、継続的・発展的な取り組みが期待できる。

○教育課程とマネジメント

総合的な学習の時間、教科学習特別活動等、教育課程の中で位置づけを明確にしていくこと、学校として組織的に取り組むことが校長のマネジメント力として求められる。

新しい取り組みは意義深いがあるものを生徒の主体的活動に改善していくことや、単年度でなく中期的な展望で進めていくこともマネジメントの上では大事ではないか。

(福大附属義務後期 牧田秀昭)

■第二分科会

体力の向上と生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を育てる教育の充実

現代的な健康課題への対応

発表者 中央中 丸山繁喜

◎発表要旨  
本校生徒の体位、体力面の特徴として、小柄でやや傾向の体位ながらも、運動部だけでなく文化部も積極的に運動し、体力を向上させている状況である。しかしながら、健康な体づくり・心づくりを通して体力の向上を図っていくこ

とが大切であると考え、健康意識の涵養と関係知識の習得を通して、生涯にわたって運動に親しむ人づくりに努めることを目標とした。

- ①学校経営ビジョンの中で、数値による目標を掲げ、教職員の意識向上を図る。
- ・学校経営ビジョンの重点目標の一つに「心身を鍛える学校」を掲げ、教職員が共通課題の克服に努めることができるよう、現状を鑑みて目標指数を提示
- ・校務分掌、教科、学年、学級等を有機的に機能させた計画的・組織的な取り組みの推進
- ・担当部署がマネジメントとしていくことで目標クリアにとどまらず、より一層の効果を目指すための新たなPDCAサイクルの実現

②体力面、特に運動部活動での生徒の心身の状況理解を深めるとともに、自己肯定感を高める方策を工夫する。

・健康チェックと体調チェックの自己分析を行いながら、ポジティブな目標達成意欲を高めるための部活動記録ノートの活用

③本校の抱える健康課題への対応を担うための学校保健委員会の意義と役割、校内組織への位置づけを明確にして、活動の活性化を図る。

・生徒の体位、体力、健康面での現状分析から課題を取り上げ、改善策を探り、実践につなげ生徒の心身の確かな成長を支援する学校保健委員会の開催

・学校三師等の専門家や校区内小学校養護教諭との連携

④心身ともに健康な生徒の育成のため、学校と家庭の連携を図る。

・保健だよりで学校保健委員会の内容を特集・発行し、保護者に理解を深めてもらうとともに協力を依頼

・PTAと連携して給食に関するアンケートや学校給食試食会、給食施設見学、給食業者の管理栄養士との意見交換を実施し、その内容をPTAだよりに掲載



今後の課題として、新学習指導要領の総則に体育・健康に関する指導について「健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること」が付加され、現代的な健康諸課題(体力の向上、食育、安全を含む)に対応して求められる資質や能力を育成することが重要であることから、教育課程内での教科横断的な工夫、「教育課程外の学校教育活動との関連」、「家庭や地域社会との連携・協働」についてこれまで以上に推進していくことがあげられる。

◎研究協議  
○自己肯定感を高める部活動の取り組みについて  
・目標を掲げ常に意識させることが必要で、可視化することが重要。この点で部活動記録ノートは有効である。

・校長として時間を見つけて学校を巡回し生徒に直接声をかけ、ほめて認めることが大切。さらに、活動の様子を保護者に積極的に伝えていくことも必要である。

・顧問に対し勝利至上主義ではなく、生徒に寄り添い、部員の仲間



意識を高めることの大切さを指導している。

○学校保健委員会の取り組みについて

・二部制で実施し、一部では学校三師等の専門家から全校生徒への講話、二部では学校三師等と学校関係者、PTAとの話し合いという形で年度ごとに一つのテーマを設定して進めている。

・中学校区で課題を設定して、中学校の保健委員会が連携し長期休業を利用して合同で実施している。

・学校保健委員会を実施する上で、課題を生徒に対してどのように投げかけ、生徒の意識をどのように高めていくかを教員に指導することが校長のリーダーシップである。

(東陽中 澤 和広)

### ■第三分科会

自他の生命を尊重し自己有用感を育む生徒指導の充実

より良い人間関係を築き、生徒一人一人の自己有用感を育む集団活動や部活動等の在り方

発表者 勝山南部中

伊藤 浩行

### ◎発表要旨

①研究・実践の概要

キーワードは発信

○視点1  
スクールプランに、知力・徳力・体力・地域力の発信という生徒指導の四本柱の設定。

・知力の発信  
自分の考えを書き、発言し、仲間とシェアして一日一発言を目指した。

・徳力の発信  
生徒会・部活動・クラス単位であいさつ運動を実施した。

・体力の発信  
部活動で声出しランニングなどに取り組み、礼儀を重んじ、あいさつを励行し、失敗したときにこそ声を出すようにした。

・地域力の発信  
校長として毎朝、交差点に立つてあいさつと声かけを行い、地域で生徒や住民と積極的に会話した。

・朝礼で、生徒指導の四本柱についての取り組みを褒めた。

・神子原米で村おこしをした高野誠鮮氏と勝山出身でJAXA国際宇宙ステーションに関わった長谷川秀夫氏をそれぞれ招いて講演会を開催した。「可能性のある限り、夢をあきらめてはいけない。」などのメッセージを得た。



・地域行事への参画では、地区体育大会の企画運営、町民文化祭のステージ発表などを行った。

・地域と共同した活動では、地域の達人を招いたタツプダンスの講

習会などに取り組んだ。

②成果と課題・今後の方針

○成果  
・生徒があいさつ運動を企画し、生徒会役員の立候補演説でこんな学校にしたいと語るようになった。

・地域への発信が効果的で、学校と地域の連携が広がり深まった。

・改善アンケートで自己肯定感が生じた。

○課題  
・学校を支えるミドルリーダーを育成する。

・校長の調整力・人間関係力を鍛える。

■第四分科会

地域との連携・協働による「チーム学校の創生」

小規模学校の教育力充実に目指した校長の取り組み

発表者 武生第五中 川崎 正人

・生徒と教職員を幸福にする。

○研究協議  
・地域に貢献し褒められることを通して、地域を誇りに思う心が育つ。自分の学校に誇りを持つことが大事である。

・生徒の地域貢献を推進するため、校長として地域を回り、調整役となる。

・地域貢献の取り組みを継続させるために、めあてや運営を工夫する。生徒からのポトムアップ型の取り組みにする。

・自信のない生徒や消極的な生徒の自己肯定感を高めるには、教員の意識改革も必要である。

・地域の実行委員会は決定機関なので校長も参加する。(尚徳中 脇本正信)

○発表要旨

小規模学校の地域性を生かした体験学習の更なる充実と、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた校長の取り組みについて学校経

営の観点から振り返る。

ここでは、「教職員の専門性を高め、組織力を高める学校経営の在り方」、「外部人材との効果的な協働体制の構築」、「チームとしての学校と地域の連携体制構築の在り方」の三つの視点に整理し、述べることにする。

①教職員の専門性を高め、組織力を高める学校経営の在り方  
・教員研修のマネジメントによるアプローチ  
・「研修デザイン」の確認様式をツールとして活用し、個々のキャリアステージに相応した研修のマネジメントを行った。

・研究部会や校務部会の数を減らし、どの部会にも良いフィードバックや専門性の高い部会が所属するようにすることで、部会協議の質を高めるようにした。

②外部人材との効果的な協働体制の構築  
・理念の共有によるアプローチ  
・スクールプラン＝学校評価システムを活用し、教職員との間で教育理念の共有化に努めた。

・職員一覧表や個人面談を活用し、常勤職員だけでなく、非常勤職員の同僚意識の醸成や目標の共有化に努めた。

・学校の実態・理念との調整を行いながら、外部人材との協働体制づくりに努めた。

・学校ウェブサイトの記事を管理職が作成する機会を多くし迅速で教育理念に即した情報発信に努めた。

③チームとしての学校と地域の連携体制構築の在り方  
・福井型コミュニケーションスクールによるアプローチ  
・「家庭・地域・学校協議会」を、学校だけでは解決が難しい課題について協議し承認を得る場として活用した。

・生徒が地域の人々とともに自ら企画・提案した体験活動を実施することにより、ふるさとに誇りや愛着をもち、新たな活力を生み



出す人材を育成するために、生徒の育てたスイカの販売等で「地域コーディネーター」の活用を図った。

④成果と課題  
・教職員と教育理念を共有し、研修を通じて力量形成を図ることができた。

・生徒の地域の一員としての自覚が大きくなった。また、生徒の自信や次年度への意欲につながることができた。

・今後も「データ」を蓄積し分析しながら、今日的な課題に対応できるように個々の職員の力量を高めるとともに、職員と専門性をもつ多様な人材とが持続的に連携・協働した学校づくりに努めていきたい。

(河野中 野村哲夫)

# 中学教育に清

# 風

新入会員だより

## 笑顔あふれる学校を

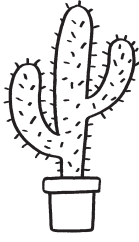
めぐらして

灯明寺中学校長 坂田 雄一



福井市の北部に位置する本校は、九頭龍川に沿った市街地とその近郊を通過する区域としています。かつては純然たる農村地帯でしたが、今では商業地域や住宅地域へと大きく変貌し、北陸新幹線の建設も進んでいます。

本校では今年度、「笑顔あふれる学校」をめざして、「授業づくり・集団づくり・心づくり・地域づくり」を合い言葉に、灯中三黙（黙読・黙働・黙想）のさらなる徹底や自己有用感を育む学年・学級づくりなど、具体的な取り組みを進めています。とりわけ、中学校区教育については、昨年度までの実践を継続しつつ、生活や学習における小中九ヶ年を見据えた系統的な教育実践を、小学校とともに進めたいと思っています。学校創立七十周年を迎え、これまでの伝統を守りつつ、時代の要請にも応えるなど、教職員一同謙虚に、そして常に学び続ける教師の姿を忘れず、子どもたちのために、家庭・地域とつながりながら教育活動に取り組んでいきたいと思います。



## 創造力を生かす

藤島中学校長 高柳 浩樹



福井市藤島中学校は福井市市街地の北西部に位置し、生徒数三百七十六名の中規模校です。

今年度の学校教育目標は「豊かな心をもち、仲間とともに向上していく意欲あふれる生徒の育成」です。これを実現するための重点課題の一つ「認め合い、高め合える集団づくり」では、クラウドという縦割り集団を活用した活動を工夫・充実し、生徒の主体性・創造性を最大限生かした教育活動を展開しています。

四月に赴任して、一番頼もしかったことは、若手教員集団が自らの企画で生徒主体の活動に積極的に取り組む、生徒の自治を育もうと挑戦している姿でした。その姿に触発され、前任校でも立ち上げ軌道に乗せた、ブログを有効活用した情報発信を四月中にスタートしました。若手教員を中心とした「創造力」あふれる仕事ぶりは、学校全体を活性化させています。



このような恵まれた教師集団の「創造力」を最大限に生かしながら「子どもたちのために」というスタンスを忘れることなく、校長として日々努力をしていきたいと思います。

## 地域とともに歩む学校

国見中学校長 渡邊 俊範



本校は学校の前には日本海が広がり、背後には国見岳がそびえる豊かな自然の中に位置し、

平成三十年度は新入生四名を迎え全校生徒十六名でスタートしました。少人数の学校であり生徒の活動を充実したものにすためには、地域の力は不可欠なものだと感じています。校区にある五つの地区では、伝統的な祭りや行事が活発に行われていますが、少子高齢化が進み、地域の活性化において中学生の役割も重要になってきています。学校教育目標の「ふるさとに誇りと愛着を持ち、たくましく生きる生徒の育成」を実現するため、国見中学校の伝統行事である遠泳大会や岩の採りの継承、中学生が地域の担い手として伝統行事に参画すること、シルバー喫茶や施設訪問、国見フェア・敬老会・文化祭などの諸行事に参加し活動することを積極的にすすめていきたいと思います。教職員が一つとなつて地域とのつながりを深め、地域とともに成長できる学校を目指していきたいと思います。

## 明るく、楽しく、

カいっぱいがんばる生徒を

大東中学校長 湯口 和弘



大東中学校は、福井市の東部に位置する学校です。毎朝、校門の前に立ち、あ

ことを日課にしていますが、緑豊かな山並みから太陽が登り、暖かな光を、生徒たちにふり注いでい

る様子を目にする、この学校が「大東」と名付けられた理由がわかります。

生徒数は四百八十名、多くの生徒が自転車通学をしています。晴れの日も、雨の日も、遠くから自転車をこいでやってくる生徒たちは、明るく粘り強く元気です。学校教育目標は「豊かな心をもち、たくましく生きる人間の育成」です。豊かな自然環境の中で、たくましく育て、地域を担う人材を育成することが、大東中学校の使命であると考えています。大東中学校は、伝統的に部活動が強い学校です。生徒には勉強と部活動の両立を目指してほしいと伝えています。変化の激しい時代を生き抜く生徒たちには、新しいことに挑戦する力と、どんな人ともうまくやっていくためのコミュニケーション力、そしてその土台となる健やかな身体と強い精神力が必要で、そのような力を育成できる教師集団を作っていけるよう、校長として日々努力しています。

## 地域の拠点となる

学校をめざして

殿下中学校長 真弓 淳



明るく素直な児童生徒と、温かい地域、保護者の方々に包まれながら、この学校での勤務をスタートさせることができました。本校は、児童が十六名、生徒が八名の合計二十四名と少人数の小中併設校であり、様々な学校の特質を生かして、様々な学習活動が展開されています。本校の教育目標は「心豊かにたくましく生きる子どもの育成」です。

個に応じたきめ細かな教科指導、中学校教員による小学校への授業乗入れなど、小中連携による授業改善が積極的に行われています。

ます。また、地域と密接につながった学校ならではの取り組みとして、地域の資源や人材を活用した伝統や文化の継承が行われています。小中学生全員で演奏する雅楽は、西雲寺桜まつりで披露されています。勤務が始まって約一ヶ月が経ちましたが、地域からの期待というものを強く感じています。この学校の地域と共有しながら、学びを継続していきたいという強みを生かして、活気のある教育活動を展開していきたいです。

## 明るく、笑顔で、積極的に

美山中学校長 藤井 雅之



足羽川の清流に豊かな緑が映え、四季折々に自然は鮮やかな変化を示す。福井市東部の美しい場所に本校は位置します。生徒は一礼して校門をくぐり、髪を落とさぬよう手ぬぐいを被って掃除を行うなど、良き伝統を引き継いでいます。本校の教育目標は「ゆかしく、たのしく、たくましい、明るい日本人」の育成です。全校生徒は六十三名で、日々学習や部活動にまじめに取り組んでおり、生徒一人ひとりが地域の宝として大切な存在となつてい

ます。生徒たちは学校や地域の良さをもっとアピールすることを考えています。生徒会は「美」人を魅せる学校に「の」スローガンを掲げ、具現化の着手し始めました。美山中生徒の魅力を生徒会執行部に尋ねると「仲の良さ、明るさ、個性的、笑顔」を挙げます。一方課題は「積極性の欠如」と答え、生徒たちが自信をもって活動に取り組めるよう、考える場の工夫、体験活動の充実や提案、成功



体験の積み上げを教職員一同協働して考えていきたいと思ひます。

### 地域と共に育てる

越廼中学校長 高橋和代



本校は、越前海岸沿いの海と山に囲まれた風光明媚なところにあります。全校生徒三十一名の小規模校のため、子どもたちは学校だけでなく地域みんなの「玉」として育てられています。越廼のよさをたくさんの人に知ってもらいたいという生徒の思いから始まった活動は、「越廼PR」と名付けられ、越廼サミツトの開催、地域行事の「さかなまつり」や「水仙まつり」への参画へと広がっています。今年度は、この「越廼PR」を合科の視点も取り入れながら教育課程の中に位置づけていき、地域の方と協力して子どもたちを育てていきたいと考えています。その中で、感謝の言葉「ありがとう」を声に出して伝え合えるようにもしたいと思ひます。

また、主体的に行動し学ぶ生徒を育てるために、生徒自身が目的を自覚し、その目的に向かって懸命に努力できるように、先生方と工夫をし、支えていきたいと思ひます。そのために、思考しながら実践していく教師集団を育てていくように校長として尽力していきます。



### 引き継がれる伝統

上志比中学校長 藤田幸一



十八年前、本校に赴任したときの驚きは、今でも忘れませんが、生徒が校門で一礼をして校舎へ入っていく姿、無言での給食、給食前には職員室前に全員が集合しますが、物音一つせず気付かないことも度々ありました。当時は生徒指導主事を務めていたこともあり、校長より「朝早く登校しないように指導してくれ」と頼まれたことを覚えています。

あれから十二年、二度目の赴任になります。時代の流れに沿って、校則や体操服など確かに変わりましたが、しかし、最初に驚きを感じさせられたものは、十八年前と何も変わっていないのでは、むしろ丁寧になっているのではないかと、いうのが、正直な感想です。

「猫の目で見ると子育て」の本文中で、「無言給食をやめよう」という校長の提案に、「上志比中学校の伝統だから続けて欲しい」と生徒が話したことが紹介されています。何でも根付くことは難しいことですが、一度根付いたものは引き継がれていくもの、ということ、改めて思い知らされる毎日です。

### 五気歓声

和泉中学校長 齊藤孝実



四月の職員会議で、校長が考えている学校経営の方針として「五気歓声（いつきかんせい）」を示しました。校長がどんなことを考えているのか、どの職員もすぐに答えることができる

ように短い言葉で表しました。「五気」とは、「やる気」「根気」「本気」「勇氣」「元気」です。本校は、小学校も併設されており、小学校の校訓に「振気勉学」があり、中学校の校訓には「自学・自修・自強」が掲げられています。「振気」と「自」はまさしく、「五気」そのものであると考えました。そして、保護者の方々、地域の方々が学校に足を踏み入れると、子どもたちの「歓声」で元気がもたらえ、そんな学校を目指していることを伝えました。

今日も朝から、子どもたち一人一人が職員室に顔を出し、大きな声で「失礼します。おはようございます」とあいさつをしてくれています。教職員みんなが、元気をもらっています。全教職員で力を合わせて「心豊かな」子どもたちの育成に邁進していきたく、二十一世紀は、人としての心が問われる世紀だと考えています。

### 明るく生き生きと学ぶ

芦原中学校長 松野信一



本校は、福井県の最北端、石川県との県境に位置するあわら市にあり、校区には芦原温泉街、南部は田園地帯、北部には北潟湖や畑作地帯が広がります。今年度は、映画「ちはやふる 結び」の撮影地になったことでも話題となりました。

本校は、「自主 正義 友愛」という校訓のもと、やる気・ゆう気・思いやりを態度で表せる生徒の育成を目指し、保護者や地域の温かいご支援を支えられながら教育活動を進めています。生徒会では「あいさつ運動」や「ちよこポラ」と名付けてボランティア活動を核にして、たゆまなく新しい伝統づくりに取り組んでくれています。

ます。また、小中高の連携による生徒の進路意識の高揚にも努めています。こうした活動を通して知徳体のバランスが取れ、ふるさとに貢献できる生徒の育成を進めます。

本校が持つ恵まれた環境を生かし、学校の主人公である生徒が明るく生き生きと学ぶことのできる学校づくりのため、全ての教職員の先頭に立ち、全力を尽くしてまいります。

### 元気・協力・笑顔

合言葉に

金津中学校長 早見敏幸



二十四年ぶりにあわら市金津中学校に赴任となりました。以前の勤務時での理科教育や部活動に明け暮れていた日々を懐かしく思い出しました。当時の校舎や体育館は改修され、いろいろと変化していましたが、生徒の素直で落ち着きのある生活態度は昔以上で、すばらしさを感じました。

本校は、学校教育目標に「明朗な和合」「たくましい実力」「うるわしい秩序」を掲げ、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指しています。これまでの本校の教育実践の歴史が、明るく何事にも真面目に取り組む生徒の姿となつて現れています。

本年度はさらに、「元気・協力・笑顔」を教職員の合言葉にして、元気に登校し、みんなで協力して活動し、笑顔で下校する学校づくりを目指しています。今後も生徒を中心に家庭や地域の協力を得ながら、あわら市の将来を担う人を創る教育を実践していきます。

### 幸せの実現を目指し

春江中学校長 林 晃司



本校は、坂井平野を中心とした農村地帯、大型量販店が建ち並ぶ商業地帯、そして春江駅周辺の住宅地帯が広がる、生徒数七百三十九名の大規模校です。

昭和二十二年に創立されて以来、「賢く正しく逞しく」の校訓が脈々と引き継がれ、知徳体の調和のとれた心身ともに逞しい生徒の育成に力を注いできております。四月に本校の校長として赴任しましたが、教職最後の生活を地元の学校、そして母校で勤めることができること、大変うれしく光栄に思っております。自分と与えられた期間はわずかではありませんが、全ての子どもたちが学校生活に幸福感を感じることができれば、生徒の保護者や家族も幸せになることができる、そのことが私たち教職員やその家族、そして地域社会の幸せにつながることを信じ、学校、家庭、地域社会が三位一体となつて、子どもたちの夢や幸せの実現に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

### 熱意をもって

坂井中学校長 東川宏嗣



本校は、坂井平野のほぼ中央に位置し、校舎の三階からは北には坂井北部丘陵地帯が、南には、文殊山や日野山が見えます。学校周辺は、市役所等の公共施設や商業施設とともに、きれいに区画整備された田園地帯となつて

います。

本年度は、三百九十一名の生徒が在籍し、毎日、落ち着きのある中、明るく元気な学校生活を送っています。素直で礼儀正しい生徒たちに囲まれ、大変うれしく思うと同時に、責任の重さをひしひしと感じています。

今年度は、「きれいな学校、明るく、落ち着いた学校、そして地域の皆様から信頼される学校」をめざして、「体力・気力の充実」「確かな学力」「思いやりのある心の育成」等を重点にして取り組んでいます。

教職員の先頭に立ち、生徒のことを第一に考え、家庭・地域・学校が力を合わせて、生徒一人一人が、生き生きと学ぶことのできる学校づくりを進めていきたいと思ひます。

## 伝統の継承と発展

東陽中学校長 澤 和広



鯖江市東陽中学校は、昭和五十三年に開校し、今年四十一周年を迎えます。鯖江市の東部に位置し、豊かな自然に恵まれ、地域の方々に温かく支えていただいている全校生徒三百十三名の学校です。

これまで六千八百三十名の卒業生が本校を巣立って行きましたが、先輩方が大切に築き上げてきた伝統である「元気な挨拶」、「まじめな清掃態度」、「すばらしい歌声」が現在の生徒にもしつかりと受け継がれています。

また、鯖江市では、ふるさとを愛し、郷土に誇りを持って地域に貢献しようとする子どもを育てるために、ふるさと学習に力を入れています。本校でも、東陽地区の活性化を目標として、「桜プロジェクト」を立ち上げ、校区の公民館や小学校、区長の皆さんのご

協力をいただき校の植樹活動に取り組みことになりました。このような活動を通して、東陽らしさを継承するとともに、地域の将来を志向した新たな伝統を築くことができる生徒を育てていきたいと思ひます。

## 地域に根ざした

### 学校づくり

武生第五中学校長 川崎 正人



本校では、体験学習に力を入れ、地区特産のスイカの栽培や希少植物のサギ草の栽培を継続

的に取り組んでいます。また、「コウノトリの舞う里づくり」の推進地区であることから、コウノトリの餌となる生物を調査する環境学習にも取り組んでいます。

昨年度は、「しらやま活性化委員会」を生徒自らが立ち上げ、地区夏祭りでのコーナー企画、五中スイカの販売とPR動画の制作、スイカの売上金を地域のために役立てたいとの思いから、コウノトリの餌としてドジョウを福井県に寄付する取り組みなどを行ってきました。また、今年度は、修学旅行の際に葛西臨海水族館で環境学習の成果を発表する予定です。

生徒一人ひとりが地域の宝であり、地域の方々から大きな期待がかけられています。体験学習や環境学習を通して、将来、責任ある社会人として地域を支えていくための資質を身につけられるよう、学校と家庭・地域が一体となった、活気あふれる学校づくりを努めていきます。

## 凡事徹底

美浜中学校長 岸本 嘉宏



本校校舎内には「凡事徹底」の言葉が数箇所に掲示されています。生徒と職員

の合言葉になっています。学校生活における、挨拶から身なり、清掃、学習その他で、有言実行をめざしているのです。

なんでもない当たり前のことを徹底的に行うという意味なのですが、それらを継続的に全校あげて実行していこうというものです。これによって、できることが増えたり、質がよくなったりすることが期待できると考えて、十一年以上前から取り組んでいます。

一学期のスタートに際し、始業式等の場面で、生徒、職員に対し、改めてこの「凡事徹底」に取り組んでいくことを確認しました。生徒に意識させるだけではなく、教職員も率先して「凡事徹底」を進めていきたいと考えています。

ちなみに、私が毎朝徹底して実行していることは、学校玄関の土落としマットをきちんと並べることです。美浜中学校に「凡事徹底」が更に広がることを願っています。

## 地域に貢献できる

### 生徒の育成

高浜中学校長 村田 好史



アジアで唯一、ビーチの国際環境認証「ブルーフラッグ」の認定を受けた我が町高浜は、美しい海岸と霊峰青葉山に囲まれた風光明媚な町です。この町を未来につなげたい、この町に生まれ

育ったことを誇りに思ってもらいたい、この町を世界に発信してほしいという願いが私にはあります。

この願いを本校の生徒に託し私の学校経営方針の重点目標のひとつに「地域に貢献できる生徒の育成」を掲げました。

本校では数年前から「ハローボランティア」という活動を行っています。この取り組みをさらに充実、発展させていきます。生徒を地域で活動させることにより、自己肯定感を高め、社会に役立つ喜びを感じ、自分の希望や夢を実現する礎を持つてほしいと思ひます。また、様々な立場の方々との交わることにより、コミュニケーションの技能や人に対する思いやりの気持ちも育つと考えています。

私の強い思いを全教職員に浸透させ、特別活動や総合的な学習の時間をさらに充実させていくことが学力向上につながると考えています。

初心忘るべからず

内浦中学校長 大野 伸也



本校は、約十年前に三つの学校が合併してできた全校児童生徒三十五名の小中併設、へき地小規模校である。地域にとつて、かけがえのない本校に勤務することとなり、身の引き締まる思いである。

私の座右の銘は、「初心忘るべからず」である。この「世阿弥」の言葉は、「一般的な意味とは少し違う。彼は、"初心"には、若いときの初心、人生のそれぞれのとときの初心、そして老後の初心の三つがある」と言う。彼にとつて「初心」とは、新しい事態に対応する方法であり、試練を乗り越える戦略で

ある。人生の試練のときに、どのようにのように乗り越えていったかという戦略を忘れるなと言っているのである。これから、いつ、どんな試練がやってくるかわからない。そんなとき、かつての試練を思い起こし、今の試練への対処方法を考えよと言っているのである。試練(少し大袈裟な気もするが)に終わりはない。一つ一つの試練を超えつつ、校長としての職責を全うしていきたい。

## 静かに思う

名田庄中学校長 今川 直



清流南川沿いを車で二十分ほど遡ると、視界がひととき開ける。まさに水清く山風清し山ありの里に本校はたえず、さらに遡り「勘定橋」を渡り「納田」と呼ばれるいくつかの集落群と出会う。峠を越えるところは京都。古のときから峠道で都と結ばれていたようだ。

四月終わりの教育懇談会。授業参観を終えPTA総会の会場へ。絶好の家事日和農作業日和にも関わらずほぼすべての家庭からご参加いただく。「授業参観では都合がつかなくとも全体会では出席せねば」と駆付けたくださる方が何人もおられた。驚きと感謝の気持ちを持ちながら、静かに身の引き締まる思いがした。生徒にとつて「自分が幸せ」になるための準備の場となる学校、保護者にとつて「子どもが幸せ」になるための成長を支え合える場となる学校、地域にとつて「ふるさと」の伝統を継承させる場となる学校、教師にとつて「社会人」として「家族・地域の一員」として自己実現できる場となる学校をつくっていこう。